

キャンドルナイトで使って

「平和の火」の残り火原爆

大阪府中央区の市民団体「キャンドルナイトワンピース実行委員会」は、原爆の残り火である「平和の火」を夏至の日前後に各地で開かれるキャンドルナイトで使い、平和を考えてもらおうという企画を計画している。実行委員会では企画への参加者を25日まで募っている。

企画は今年で4回目。平和の火は原爆が広島に落とされた65年前の夏、広島へ出征した福岡県星野村出身の故・山本達雄さんが、被爆死した叔父の形見として

参加者募集の企画へ

携帯カイロで持ち帰った火を自宅でもし続けた。その後、同村が引き継ぎ、「平和の塔」に移されて今も燃え続けている。

平和の火は6月11、13日、大阪市内などで開かれる採火セレモニーで希望者に



渡される予定。参加者には火を持ち帰ってもらい、各地のキャンドルナイトで使ってもらおう。問い合わせは実行委(06・63375・7816)。写真写真は平和の火を使った昨年6月のキャンドルナイト(同実行委員会提供)